嵩山叢仇討

五六

へ13
3322
3

へ13
3323
3

大正十年八月廿九日寄贈
本大學出版部

金澤榮

嵐山參詣付參ゝく五

同孫

一　杉本新左衛門尤糟と駒ゝ事

嵐山巻終付巻之五

杉本新右衛門光隆と申す事

[illegible]

人杉本新右衛門平義則[illegible]

十七歳のうちの[illegible]

[illegible]

国人まんさくの五月雨の水明く
うりうさと朝日納うりうし令うさ
まうら風り来しのお汁四とうらい
茶うらめつるしとみ新茶中は
なりしの鶴とうらさしいうら明
も咲しうり本多佐の子歌うきまけて
名とやまうくて鶴うつても古卿と都き
両三年孫の小如し山ち寺くまで

いくぞれ叶の春み来してあかにて船く
そのかみかに風や会ざとしくも兎なりり
ことふきと身のゝくにせ知りてよう給
まうらうとの雪るいもらくしもおちうり
そうもうかほ鶴亀と踏うち本よ
深くかづうりそうもしけつとまことに人参
乃ことの日しくも付ねうゆうしく見え
ミやあきとて何氏うして四年人へてのみく

念とのさとりにけくとうそまもうら
けふこ田へ新左衛門ハくひ藁をたずふ
ありたるこし木の根より膽けん見て
居たりしふしぎ人の老人新左衛門の側に
来たりのち身をしくやとひとゝいひたるく
さいごけり宮ゑりかへしとひとりことを
ごしんしたる時に新左衛門の老人を
引留てかのく見くらい御手をとりてめぐる

お母ハしいらふくゆゑやしく流るゝ身にて
そのご老人にこくてをとりて
ちやせんなうれ手引
ハ新左衛門拝之しておもひひとしに老人
わかつく世の流かなりつく胸とゆきせ
もふんて其田畑をゆつりて大穣出て耕作と
あらし又新家の抱ひもつたえかハ
かの大穣とおもひとしんとなりの孫たち

大臣ふるぎのそくしんの御
所のゑんぎ[illegible]
[illegible]の御[illegible]
いたくしたまふ[illegible]
りうの始[illegible]と[illegible]て新[illegible]
[illegible]ひとの大臣[illegible]
[illegible]知あり[illegible]
[illegible]

おとうとのやうにんへと[illegible]
もとゝ[illegible]
年[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大人にて力あるやうなれ
ども年ゆきたるものゆ
ゑ世事かう間ふまじ
ものなりとて二三年の内
に年一度の新年の絵とて
ものいとうつくしきを
とくとくしたるつゆ
なりとぞ申とぞ

一陽

ものの始めなる
故の名なるべし
氷の母なる
とぞ
新年の新とて
喜ぶこと新年
ふかとあるこん
ぶうとぞ

[illegible]て武蔵の人々
[illegible]新人[illegible]新[illegible]
小猿[illegible]
[illegible]ん特[illegible]
新[illegible]
[illegible]
[illegible]の眼と
[illegible]
[illegible]の[illegible]大猿

を生捕[illegible]
新[illegible]の猿[illegible]
[illegible]新[illegible]
乃[illegible]大猿と特[illegible]
[illegible]
里人[illegible]
[illegible]の[illegible]の
[illegible]

あけくれよりまもりおしもなきの
ごとしいかうらかの大樹ありけり
その大きさ山のごとし枝葉茂り
日月のひかりを遮りぬ
ひの丘
ひとりの日成長けり年来ありて
ふと月をとりぬとおもうたくと
とぶけてしまりる里人つどり
新宅をとりはらひ
丘

本のまへに登りもあり人をあつめ
新宅をいたもおそれ
ひとりの日樹を抜こうとすの樹を
たちまちと長けりすでに四年
いたりのたりまりて月を
彼樹を新宅を見ひふ
新宅をしんかりたりて
めけ遠るもあり
大樹

そのかまへ半飛鳥のごとく新左衛門は
弓とらんとして仕つる猿はいつはりて
うけとめ太刀をぬいて身は犬猿のごとく
勘気のけしきあらはれ新左衛門あく
なりまさりて猿は四郎(?)ともにあらそひ
新左衛門もうしもひかずて天狗(?)の如く
の勇をふるひ三ところもあたりに一打
拳を握りてうつ手のかへし

更に人ごともなう屋をのかれん新左衛門を
こゝろ御劔をうしなひて猿は新
左衛門の二の袖をはらつて新左衛門を
ひきよせて大猿の肩先を膝にしき
つけて太刀をぬきこれにも心を
たゞの袖をとらへてあけ一面につき
拳をふるつて頭もすでにうたれんとす
大猿を膝にしきつけて太刀の

手いは掻つくし調きこしく笙絶見てめてゝく
まうくしなども新羅三郎も徒まく
おとへ紀うくして御習ところの秘曲を伝へて
なりまさりけるとこそとつたへ聞けり聖人
等大食調の中あつまり調の大曲の秘事を
志ぐらうしけるに楽人新羅三郎に前よ
許され授けしもおくらつるゝ入てくりの御伝
大極の平楽の中の雅楽をうけたまはりしところ

実なりの道をとうくてことかいらる深けて
四宮の蝉丸ひとへにひとつの調子をわきまへ
平つくしてく鳥のこゑ新羅三郎ことくらも
いらへをわらひつきのこゑを給ひけり
すへてこの小鍛冶してその後もうくしく
是かつくしく調くの秘曲の調の名を
あらくつくしとみへる嘆きとつかへく調
世になりしたまひ楽人のの聖人にもたてゝけり

此ころまて敵かゆゑこそいはれしかう
あるらく新発意か猿そのまゝいなしかし
由くころし給人しやう新三郎が兄弟
いろいろ物くるてち儀の様子なる事にわかれ
せられやくもしくのを入りまことにわかり
合図さしかと三条台五の事にふつかりにて猿を
らうさびのうちにありてそれも猿とうたる
りし力の物かたりつとうけそたまへ申置候

八幡の猿人は平らくしゃいくそ猿かゞ
猿ともそもけさう久丈まこそこの宿と
まいくの息ととり給ふの子か今日なとの
猿人へくくの御母なとさえしくふ
新三郎の持きりそくいそさらにものす
きつひ物を申こと申しても悪しからう
かいはらて申して猿ともって大猿の母ひ
人まとのゆくいひろゆう海金銀

うれしくも性あらはしてたまふ御かうにしたまへと
こゝろは嘆き天地のめぐみをまつる
まのあたり人皇十代崇神天皇の御とき
いのちをながらへしよろこびやなんどいふことは
人皇よりこのかたこゝろを野によせて生捕
とりてもちゐけるをつかはしこの頃にはなし
里人出て農作をはげみ渉人とも申して
年々のとしてとし里人出て年うつりて

相角之戟とのかひとつむかし鶴のまから
まりしんたまくてしく縄としてあふく
かしこく拝みてとりしてかしこ[illegible]
たまふ大蔵をかれしてにあまて西山とほうそ
三度ちまち新年の年つくし山奥の
かく人参りて新たに瑞ちんおくりて
榊をかと肩にかけて[illegible]神をから
[illegible]ひて行く[illegible]旅人ありて

新三郎の袖(そで)とらへていかにせんとさそ
ともや深(ふか)き恨(うら)みもありけるぞ
是(これ)までは契(ちぎ)りし縁(ねん)の…
にやつし継(けい)母(ぼ)…一献(こん)…
御(ご)一旦(たん)…新三郎…
美(み)…
み…

先(まづ)…
…
…
…
…
…
…

かうこれを譲りて新五郎とかへんしく
帝のこと以月よりなにがし屋には譲りて
前しく新五郎とこう法人なりとめしな
されども新五郎なかでの職わるく長
この者の親父人たる新もなしまることてうくて
草き神しんしくとは忠や止まかたく
その者ゆえしくて世の学者の武官より
いかにしく星の新ぬるをもとりくひおる

それよりのち人の心もさだまりて
今日より眼しん夏沐このへもなき大思
背しくて法合みかりつ仍の嫁くしも猫
一つなき人と酒くいかいとくし厚く答
あし星人へかもとし縁くとの色く
しくし又條も海なりとびの本の日の[illegible]
嘆き家所あしん中たと身へしも性を
弥の前思極しとうかく[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

里人此あたりの者ゟげら内弟の真見てよしさ
ぐりて山ぬりくつしむのことだしらそと
ましるしし流しくろ形さに紅あのまさに
いう人猿こへてとさ終い妻の猿出たまれ
らう痛ありて今日ハとしてもきしのあさ
りもそれ山人授かりつうりし里なかしく
御のまのとこりくつまそうり里人ておちのう
半世目阿多りいつ京人民の舎をとしれをり

あらんと波と流しくろ形さる所紀て
峰らくそい海岳しうん衣ぬうべしまし
し唐よりて石の妙ふあつて猿の猪家よ
ちえ須の猪と接もろくとろい平窓
うこうしいなしりの玉観いへいつきい五洞
好の秀明のくへつうくいろく紙もむ
庭てし重つうしてまうてえりいん
ともしし錦うて半おりまとていえかく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是と見へてくゝるを揚け嶋年ありしひかる
蔵あけて実がし悲涙がしまく
らほずしゆくしけん兵衛の酒郷
かゝらるを聞ものよう請給るとのいさる
最くなんげ守叉が姫はるとさけをむ
不便なり其御身もやんとさひうとて
新左衛門聞まじひ是を若と志川
めく紙筆ゞ下さいといふて来

扨も本古山の大猿の事らくらう
そ刃と請取いろ〳〵志て給へて
うつしとはあらふ書尋ていせきと
ふしぎにて人々の筆を書しを候
かゝるところハ大にして
其元子と分りてはうき
然といひかりやそとゆふ
おもひ我大猿のしのいかに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嵐山参詣付参ゝ六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そく世のうしわざども英雄の潤色所に
ゆらつのくにだちとうとうとう

[illegible]
大れの根ぬとくらりと[illegible]
[illegible]
[illegible]の秘術とて[illegible]
くり切れたる[illegible]二人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]